

◀新型コロナシリーズ9▶

世界経済は「V」字回復ではなく「レ」型回復に ～年後半の回復力は緩慢～

- (1) 新型コロナの流行に伴うに厳しい移動制限により、世界中で成長率が落ち込み。中国では1～3月期に前年比▲6.8%。欧米では4～6月期に前期比年率▲30%前後のマイナス成長の見込み。
- (2) 早期に新型コロナの新規感染者がゼロとなる状態（終息）を実現するのは難しく、年央までに、感染爆発はしないものの、新規感染者数が徐々に落ち着くピークアウトが現実的なところ。年内が抑制・収束進展期、本格的に終息するのは2021年入り後の見込み。
- (3) したがって、年後半には世界景気はボトムアウトするものの、「V」字回復は展望しがたい状況。むしろ、新型コロナ後の新しい経済モデルを模索するなかで、経済活動が緩やかに持ち直していく「レ」字型になる見込み。その結果、2020年通年の世界経済の成長率は▲2.7%を予想。
- (4) 年内も感染拡大が続いた場合（サブシナリオ①）、2020年の世界の成長率は▲7.0%。21年も感染拡大が続いた場合（サブシナリオ②）、21年は▲5.0%に。経済政策で対応するのが困難なレベルに。

(図表1)世界経済見通し

(暦年、%)

	2018年 (実績)	2019年 (実績)	2020年 (予測)	2021年 (予測)
世界計	3.7	2.9	▲2.7	5.4
先進国	2.2	1.7	▲4.8	4.4
アメリカ	2.9	2.3	▲4.1	4.3
ユーロ圏	1.9	1.2	▲5.7	5.3
イギリス	1.4	1.4	▲6.0	5.7
日本	0.7	0.7	▲3.7	2.1
新興国	4.5	3.7	▲1.6	5.9
BRICs	6.0	5.1	▲0.5	7.7
中国	6.7	6.1	▲0.3	9.5
インド	6.2	4.5	1.3	6.8
NIEs	2.8	1.7	▲2.7	2.8
韓国	2.7	2.0	▲3.2	3.0
台湾	2.6	2.7	▲2.3	3.4
香港	3.0	▲1.2	▲4.9	1.3
ASEAN5	5.2	4.8	0.1	7.3
インドネシア	5.2	5.0	1.5	6.9
タイ	4.1	2.4	▲3.5	4.3
マレーシア	4.7	4.3	▲1.9	8.5
フィリピン	6.2	5.9	1.6	9.0
ベトナム	7.1	7.0	0.1	10.8

(資料) IMF、各国統計をもとに日本総研作成

(注1) 世界193カ国。先進国は、IMFの分類からNIEsを除く。具体的には、米・日・ユーロ圏(19カ国)のほか、英・豪・加など35カ国。先進国以外を新興国とした。

(注2) 地域は購買力平価ベース。

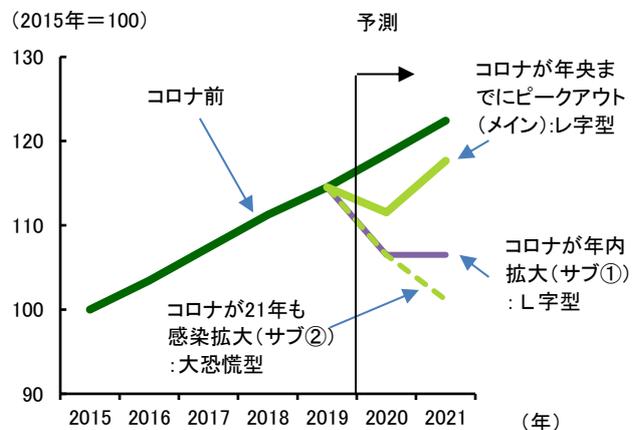
(注3) インドのみ年度ベース(当年4月～翌年3月)。

(図表2)新型コロナ感染状況によるGDP予測値

		2020年	2021年
メインシナリオ	年央までにピークアウト、年内は抑制・収束進展期、本格的な終息期は2021年	▲2.7	5.4
サブシナリオ①	年内感染拡大	▲7.0	0.0
サブシナリオ②	21年も感染拡大	▲7.0	▲5.0

(資料) IMFを基に日本総研作成

(図表3)世界GDPの3つのシナリオ



(資料) IMFを基に日本総研作成

【ご照会先】調査部 マクロ経済研究センター所長 石川 智久 (ishikawa.tomohisa@jri.co.jp, 03-6833-6491)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来ると思われる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがありますので、ご了承ください。